【募集テーマ】地域の特色や魅力を活かした賑わい溢れるまちづくり

【応募期間】平成26年9月2日～10月31日

＜主催＞快適都市実現委員会　委員長：安藤忠雄（建築家）

「ゆめづくりまちづくり賞」では、個人や団体、企業、行政において行われている**まちづくり**や**地域づくり**の取り組み事例を募集し、その中で特に優れたものについて表彰を行い、広く紹介し、関西において更によりよい都市形成や地域活性化に向けた取り組みが進展することを目指しています。先進的事例として全国に発信できる取り組みを募集します。

＜応募要領・問合せ先・応募先＞

●事務局：国土交通省　近畿地方整備局 企画部　企画課
「ゆめづくりまちづくり賞」係
●TEL：06-6942-1141
●E-mail：genki_happyou@kkr.mlit.go.jp
●応募要領等：詳細は、右のQRコードからHPへ
（または、WEBで「第7回ゆめづくりまちづくり賞」を検索）

後援：（公社）関西経済連合会、（一社）関西経済同友会、大阪商工会議所、（一社）近畿建設協会、（独）都市再生機構西日本支社、（公社）土木学会関西支部、（一社）日本建築学会近畿支部、（一社）建設コンサルタンツ協会近畿支部　（順不同）

平成26年度 手づくり郷土賞

目　的

全国各地において、地域固有の自然や歴史、伝統、文化や地場産業等を貴重な地域資源として再認識し積極的に利活用した、魅力ある地域づくりに成功している事例が数多く見受けられます。

このように、地域の魅力や個性を創出している良質な社会資本及びそれと関わりを持つ優れた地域活動を一体の成果として発掘し、「手づくり郷土賞」として表彰するとともに、好事例として広く紹介することにより、各地で個性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が一層推進されることを目指しています。

部　門

募集対象

手づくり郷土賞（一般部門）

地域の魅力や個性を創出している、社会資本及びそれと関わりがある優れた地域活動が一体となった成果

手づくり郷土賞（大賞部門）

これまでに「手づくり郷土賞」を受賞した社会資本又は社会資本と関わりのある活動 を含む成果

選定のポイント

手づくり郷土賞の選考は、以下の視点に着目して行われます。

①社会資本の整備・維持管理・利活用にあたっての創意・工夫
（地域特性を踏まえた整備・維持管理上の工夫、地域資源としての活用・育成 等）

②地域活動における創意・工夫、取組の独創性
（新しい発想、住民自ら考え工夫を凝らした取組 等）

③地域づくりへの成果及び波及効果
（地域への思いに富んだ取組、地域づくりの枠を越えた効果 等）

④今後の活動の継続性・発展性
（住民が長く活動を続けられる仕組み、周囲を広く巻き込む工夫 等）

⑤他の参考となるような先進性・先導性

⑥その他（上記以外の特に優れた内容）

⑦社会資本の地域への定着状況
（地域のシンボルとして広く認識されている、多くの地域住民が日常的に活用 等）

⑧活動の継続状況
（規模を広げながら着実に継続している 等）

⑨活動の発展状況
（新たな取組を創出している、他地域へ波及している 等）

応 募 団 体

社会資本を有効活用し地域づくり等に取り組む活動団体が単体、又は社会資本を管理する地方公共団体（都道府県、市区町村）との共同で応募することができます。

選定委員会

委員長：	齋藤　潮	東京工業大学大学院社会理工学研究科　教授
	荻原　礼子	結 まちづくり計画室　代表・まちづくりプランナー
	佐々木　葉	早稲田大学創造理工学部　教授
	鈴木　伸治	横浜市立大学国際総合科学部　教授
	関　　幸子	株式会社ローカルファースト　代表取締役
	田中　里沙	株式会社宣伝会議　取締役副社長　兼　編集室長
	森反　章夫	東京経済大学現代法学部　教授
	瀧口　敬二	国土交通省総合政策局長

※ 詳細については、国土交通大臣表彰「手づくり郷土賞」ホームページをご覧ください。
（http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/tedukuri/index.html）

第７回「ゆめづくりまちづくり賞」（優秀賞）

人と自然が共生するカタクリ100万本の里山

＜矢環境緑化実行委員会＞

時代の変化にともない薪から石油に変化し里山は荒れ果てた。これに危機感を感じ地区全体での里山整備の取り組みが始まった。単に整備して綺麗にしても継続的な整備が行われなければ意味がないとの考えから、整備した後に桜を植えてその桜を整備していくなどの工夫が盛り込まれた。その桜は切り花用として地元の商店に出品するなど産業を創出した。また、桜の整備中に発見したカタクリとともに地域一体を矢桜公園として整備しイベントを開催したことで、自分たちの住んでいる地区には誇れる地域資源が存在することを確認した。地区が総力を挙げて取り組んで活動し、多くの人に来てもらい、イベントで交流することで、地区外からの参加者が来るなど広く展開している。イベント協力者は当時、ボランティアだったが、イベントで得た資金から手当てを出すことでモチベーションを上げている仕組みを取り入れた。自分たちの住んでいる地区には地域資源は何も無いと思い込んでいたが、大いなる自然そのものが誇りであると認識するに至っている。

地域で里山を守るための整備の様子

120本の桜をみんなで植樹

地域の誇りカタクリ発見

第７回「ゆめづくりまちづくり賞」（優秀賞）

竹の径・かぐやのタベ

＜向日市観光協会＞　（京都府）

西ノ岡の竹林は良質なたけのこの産地として全国に知られているが、近年は放置竹林が増加していた。そこで、放置竹林で伐採した竹で竹筒を制作するなど、竹林の保護整備と地域振興を目的とした「竹の径・かぐやのタベ」の開催に至り、竹を地域資源として活用することで、竹林の保全整備と地域の魅力づくり創出につながった。このイベントでは、演奏会の実施や京都府内の観光交流促進のためのPRブースを設けるほか、住民等による手作り作品を展示するなど、地域住民や団体等みんなで作り上げる向日市秋の風物詩として定着している。また、このイベントに市内の店舗が出店することで地域住民への店舗PRにつながっている。なお、このイベントで使用した竹筒は、希望者に配布し、迎春の門松や花瓶等に活用するなど、資源としての再利用を図っている。そして、会場となる竹の径は、日頃から地域の方の散歩道として親しまれるなど、良質なたけのこの産地としての魅力を構築した。

竹行灯で彩る幻想的な散歩道

保護整備された竹林から見る竹林灯

市内店舗の出店が地域の　に

第７回「ゆめづくりまちづくり賞」（優秀賞）

『まちなか魅力スポットの創出』
～密集市街地の空き地・老朽空き家を魅力スポットに変身！～
＜兵庫区北西部まちづくり協議会＞　（兵庫県）

兵庫区北西部地区は地震時等に著しく危険な密集市街地であったため、災害時に防災活動の場となる「まちなか防災空地」の整備を実施した。近年、放置された空き地や老朽空き家が目立ち防犯や住環境の面からも改善が課題であったが、まちなかに防災機能を持った広場を確保することで、コミュニティの場も創出できた。

その結果、地域の方々の交流が増えたことで、新たなまちづくり人材の発掘につながり、まちづくり協議会の活動への参加者が増えた。また、魅力が認知され「自分の地区へも」と近隣地区へ整備が波及した。空き地や老朽空き家といった「負の資産」を単に無くすだけでなく、「新たな魅力資源」として再生する取り組みを実施している。

放置された空き地

防災空地の中に菜園を設けた「まちなか魅力スポット」

地域で検討している様子（まちづくり協議会）

第７回「ゆめづくりまちづくり賞」（奨励賞）

堺に縁ある”すずめ踊り”を絆とした「人が輝く元気なまち」づくり
＜堺すずめ踊り協賛会＞　（大阪府）

「すずめ踊り」は仙台城移転の儀式で堺から石垣造りに参じた石工衆たちが伊達政宗の前で踊ったとの伝説があった。この堺に縁のある「すずめ踊り」を普及し、活動を通じて人と人との絆を強くすることで、地域の元気づくりに貢献している。初めての参加者へのフォローに細心を尽くすことで、絆づくりやの喜びが実感でき地域の愛着心が醸成されるとともに、堺市内7区に少なくとも一つの祭連（まづら）が立ち上がるなど広く展開している。また、「すずめ踊り」で使用するハッピや楽器は新たな地場産業の業容を拡大した。活動の持続可能性を見据え、実技者単位の連合組織「堺すずめ踊り連盟」と財政や事業企画支援を目的とする「堺すずめ踊り協賛会」を分離する仕組みを取り入れている。「人が輝き、地域を元気に！」を普及活動の理念（合い言葉）に、これまで堺にはなかったこの「すずめ踊り」を普及させることで地域の魅力を再発見し、堺市民の絆づくりと東日本大震災被災者の激励活動に取り組んでいる。

実技者がすずめ踊りを伝授

子ども達も大好きすずめ踊り

人との絆を強める（被災地の子どもを招待）

第７回「ゆめづくりまちづくり賞」（奨励賞）

かばんを核にしたまちづくり～地場産業ブランドと地域拠点立ち上げ～
＜豊岡まちづくり株式会社＞　（兵庫県）

豊岡市は高齢化や人口減少のためシャッター通りとなっていたため、鞄の産地を活かした拠点をつくることで市街地への集客機能を創出し流入人工を増やした。長らく他社の製品をつくる街であったため、地域の方々は鞄が誘客する地域資源になるか不安があったなか、空き店舗を利用したイベント等を開催することで雰囲気づくりを実施する工夫をした。鞄企業においては地域団体商標「豊岡鞄」ブランドを作り豊岡製造に特化したオリジナル商材を製造しブランディングに取り組んだ。また、周辺ショップや観光地と連携し「鞄の街」の歴史やショップ等を説明するツアーを実施することで「鞄の街」が定着する雰囲気を醸成した。拠点施設は豊岡製の各社のオリジナル鞄の他、本事業で商品開発された鞄が販売されるなど新たな商品に結びついている。オリジナル商品開発に積極的に協力し集客のマグネットとして絶えず新たな鞄に出会える魅力のある店舗づくりを心掛けている。

地域づくりの拠点。集客のマグネット

商店街イベント「カバストマルシェ」

ショップを説明する「鞄の街」ツアー

第２９回「手づくり郷土（ふるさと）賞」（一般部門）

安曇川河畔林の竹林の保全をエコツアーにした取り組み
＜湖西夢ふるさとワイワイ倶楽部＞　（滋賀県）

安曇川では江戸時代からはん濫を防ぐために河畔に植えられた竹を使った扇骨（扇子の紙以外の部分）の生産が行われてきたが、輸入材の増加等から竹林が放置され荒廃が進んだ。そこで、平成11年に地域交流創出を目的に発足した「湖西夢ふるさとワイワイ倶楽部」(197名)が平成19年に竹林整備部門を設立。4,500㎡の荒廃竹林を借り受け、竹林整備・自然観察・食育等をエコツアープログラム化した「新竹取物語」を展開。平成25年度は646人の参加があった。活動費は補助金に頼ることなく、その参加費から捻出している。竹林の適切な維持管理により、山野草や昆虫が増えるとともに、洪水氾濫防止や不法投棄対策として効果があった。

新竹取物語　竹林整備体験の様子

第２９回「 手づくり郷土賞」（一般部門）

ストリートライブ能で美しいまちづくりと地域の賑わいづくり
＜公益財団法人　山本能楽堂＞　（大阪府）

公益財団法人山本能楽堂は大阪のまちに美しい都市空間を創出し、偶然居合わせた不特定多数の人に能の魅力を知ってもらうため平成１６年より公共空間におけるストリートライブの活動を開始した。そして、平成17年に「水の大切さ」を喚起し水都大阪の魅力を周知するため、水の浄化をテーマに環境問題について考える新作能「水の輪」の活動を開始した。水辺の拠点として整備された公共空間で再演を繰り返し、平成25年には「中之島GATE」で10回目の公演を実施した。本活動によって、水辺空間を活用した賑わいが創出され同時に「水の大切さ」が喚起された。

御堂筋の道路沿いで能の公演

「中之島GATE」で能の公演